

## 第5学年 国語科学習指導案

令和元年6月27日（木） 第5校時

- 1 単元名・教材名 筆者の考えをとらえ、自分の考えを紹介しよう ～My生き物コラム～  
「見立てる」「生き物は円柱形」

### 2 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、これまで説明的な文章で「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」（第3学年及び第4学年C読むことア）について、「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」（第4学年）では、「初め」と「終わり」に結論を示す「双括型」で書かれた文章を読み、「中」の部分が事実や解説により構成されているという文章構成を学習してきた。また、「アップとルーズで伝える」では、事例を挙げ、それを踏まえて最後に結論を示すという文章構成を学習した。また、「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」（C読むことカ）については、「なまえつけてよ」（第5学年）で、叙述を基に登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、人物同士の関係の変化や作品についての自分の考えを共有することを通して、自分の考えを広げる学習をした。叙述を手がかりに、筆者の考えや自分の考えの根拠についてまとめる力を身に付けさせるために、「叙述を基に筆者の考えを捉え、自分の考えをもつこと」を繰り返して行ってきた。叙述を基にして筆者の考えを捉え、自分の考えを表現できる児童が増えてきた。一方、叙述から筆者の考えの中心を捉えることが難しかったり、自分の言葉で表現することが苦手で筆者の考えをそのまま引用したりする児童もいる。また、全体やグループの話し合いでは、友達のことをしっかり聞くことができるが、自分の考えをもち、進んで発表する児童に偏りが見られる。

本教材の「見立てる」「生き物は円柱形」は、「共通性」を「想像力」を使って見立てている点や、筆者の独自の考えを証明する点などの共通点がある。その点において、具体から抽象に思考が移っていく第5学年という発達段階に適した教材であるといえる。また、両教材共に、双括型の説明的な文章であり、筆者が最も伝えたいことは始めの段落と最後の段落に書かれており、中の部分は考えの論証をしているという点でも共通している。段落の役割が分かりやすく、文章構成や筆者の考えの進め方を捉えることに適した教材であるといえよう。さらに、知らずのうちにしている「見立てる」ことを題材にしており、自分の考えを形成しやすい。そのため、自分のものの見方を振り返り、筆者の主張に賛成できるかどうかという、批判的な読みを行うことで、自分の意見がもちやすい教材である。

児童の実態や教材のもつ特性から、本単元で身に付けさせたい力を「叙述を基に文章構成や要旨を捉え自分の考えを明確にしながら文章を読む力」、「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、根拠を基に紹介する力」とする。叙述をもとに筆者の論の進め方や要旨を捉え、自分の考えをもつことを確実に身に付けさせ、5年「想像力のスイッチを入れよう」、6年「笑うから楽しい、時計の時間と心の時間」さらには、中学校での「叙述を基に、要旨を把握すること」「自分の考えを確かなものにする」との学習へとつなげたい。

本単元の指導に当たっては、前述の2つの力を身に付けさせるために、単元を貫く言語活動を「筆者の考えと自分の考えをつなげよう ～My生き物コラム～」と設定し、次の3つの段階で学習を展開していく。単元に入る前に理科で共通体験としているメダカやインゲン豆の写真を掲示し、生き物の形に注目できるようにする。また、学級文庫には「自然・生き物コーナー」を作り、様々な筆者のものの見方や考え方に触れて、比較できるようにさせる。事前に自然や生き物に親しむ教室環境を整えることにより、本単元の学習に入りやすくしていきたい。

第一次では、第一教材「見立てる」で文章構成や例の挙げ方を確かめながら、筆者の考えや考えの進め方、要旨を捉える。その際、筆者の考えと自分の捉え方について「My生き物コラム（円柱形）」にまとめ、昨年度本単元を学習している6年生と保護者に向けて発信することも伝える。

第二次では、第二教材「生き物は円柱形」で、文章構成や筆者の考えの理解を定着させ、活用していく。そのために、考えの進め方や要旨について、文章を引用したり内容を要約したりしながら「My生き物コラム」にまとめていく。また、筆者の考えを捉える場面では、実際に全員で実験をしたり、教師が実験した動画を見たりする等、体験的な学習も取り入れて、実感を伴った理解ができるようにする。

第三次では、完成した「My生き物コラム」を学級で交流し、意見や感想を共有することを通して自分の考えを広げていく。その後、6年生や保護者に発信していく。

国語においては、「発見や驚きに導きつつ、ねらいを達成させる」ことが、生きて働く国語の力につながるものと考えられる。そこで、まずは文章を読んで、「共感したこと」「疑問に思ったこと」等を児童に挙げさせ、その感想を手がかりに文章を読み進める方法でねらいに迫っていきたい。

### 3 研究主題との関わり

「豊かに伝え合う力を高める国語教育の充実」～全職員で取り組む発問・切り返しの工夫～  
<研究の基本的な考え（手立て）>

#### (1) 自分の力で言葉を構成する力を身に付ける授業〈論理的思考力の育成〉

初発の感想では、納得したところ・なるほどと思ったところ（共感）を赤い短冊に、よく分からなかったところ・納得いかなかったところ（疑問）を青い短冊に書き、全員の短冊を段落ごとにまとめて、自分の考えをもちながら読み進めていく。6年生や保護者に向けた「My生き物コラム」を作ることを伝え、教師がモデルを提示して目的意識をもたせる。その際、筆者の考えと自分の考えを比較しながらコラムにまとめていく。

#### (2) 驚きや発見に導きつつ、ねらいを達成する授業〈学びに向かう力の育成〉

全文揭示を活用し、文章構成や要旨を明確にさせる。また、文章構成や筆者の論を捉える際には、本文にサイドラインを引かせることで、叙述を基に自分の考えを明確にさせる。体験的な学習も取り入れて、実感を伴った理解ができるようにすることで主体的な学びにつなげていく。また、本時のねらいに迫るまとめと振り返りができるような話型を提示する。毎時間の振り返りをICTや教室掲示で紹介し、自分や友達の考えを共有していくことで考えを広げたり、深めたりできるようにする。

#### (3) 伝え合うことがうれしくて、自信がもてる授業〈自信と誇りの醸成〉

全体交流では、児童の発言をつなげるような発問と切り返しをする。また、全体で読みを進める場面では、筆者の説明の部分を動化させたり、実際に実験をしたりして実感を伴った学習にしていく。さらに、読み方に迫るペア交流を行う。「My生き物コラム」は6年生と家庭に向けて発信し、感想を付箋に書いてもらうことで、実感を伴った自己評価ができるようにする。

#### 4 単元の目標

- (1) 文章の組み立てを考え、話題と筆者の考えの進め方に対して自分なりの考えをもとうとしている。  
 〈関心・意欲・態度〉
- (2) 叙述を基に文章構成や要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。  
 〈読むこと〉
- (3) 筆者の考えや、考えの進め方について感じたことを、引用したり内容を要約したりしながらまとめることができる。  
 〈読むこと〉
- (4) 語句と語句の関係に気をつけて、筆者の考えの進め方を読み取ることができる。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉

#### 5 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・文章の組み立てを考え、話題と筆者の考えの進め方に対して自分なりの考えをもとうとしている。	・叙述を基に文章構成や要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読んでいる。 ・筆者の考えや、考えの進め方について感じたことを、引用したり内容を要約したりしながらまとめている。	・語句と語句の関係に気をつけて、筆者の考えの進め方を読み取っている。
学習に即した評価規準	①文章を読んで、納得したことや疑問について感想を書こうとしている。 ②文章の構成や筆者の考えの進め方に対して自分の考えを明確にしながら文章を読もうとしている。 ③文章を読んで、筆者の考えの進め方や要旨、自分の考えをMy生き物コラムにまとめようとしている。	①文章の構成や例の挙げ方を確かめながら、筆者の考えやその進め方を捉えている。 ②叙述を基に、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と意見などとの関係を押さえたりして読んでいる。 ③筆者の考えや考えの進め方について感じたことを、自分の考えと比べながらまとめている。 ④「My生き物コラム」を読み合い、考えを広げたり、深めたりしている。	①文章の中での語句と語句との関係を理解している。 ②語句と語句の関係に気をつけて、筆者の考えの進め方を読み取っている。

#### 6 指導と評価の計画 (全9時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
<b>第1次 単元の終わりを思い描く</b>			
1	○既習の学習を想起する ○「筆者の考えと自分の考えをつなげよう ～My生き物コラム～」という単元の目標を知る。 ○初発の感想を書き、納得したことや疑問を短冊に書く。 ○感想を共有する。	○既習の学習の想起 ○単元の目標 ○学習の見通し ○相手意識…6年生、保護者の方 ○目的意識…筆者の考えや自分の捉え方を紹介する事を通して、自分の考えを深めること ○感想の観点	ア①・エ① ・発表の様子や態度の観察 ・ノートの記述内容の考察

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・納得したこと</li> <li>・納得できないこと</li> <li>・不思議 ・疑問</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「見立てる」を読んで、文章の構成や例の挙げ方を確かめながら、筆者の考えやその進め方を捉える。</li> <li>○要旨をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者の考え</li> <li>○文章の構成</li> <li>・「初め・中・終わり」</li> <li>○中心となる語や文</li> <li>○要旨のまとめ方</li> </ul>	エ②・オ① <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の様子や態度の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容の考察</li> </ul>
<b>第2次 育みたい力で教材を理解する</b>			
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「生き物は円柱形」を読んで、初発の感想を書く。</li> <li>○初発の感想を書き、納得したことや疑問を短冊に書く。</li> <li>○感想を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感想の観点</li> <li>・納得したこと</li> <li>・納得できないこと</li> <li>・不思議 ・疑問</li> <li>○考えの共通点・相違点</li> </ul>	ア① <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の様子や態度の観察</li> <li>・ノートの記述内容の考察</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の構成「初め・中（前半）・中（後半）・終わり」に分け、文章構成を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の構成</li> <li>・「初め・中（前半）・中（後半）・終わり」</li> </ul>	エ①・オ② <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの記述内容の考察</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「中（前半）」の論の進め方を捉える。</li> <li>○「中（前半）」の部分を自分の言葉でまとめる。</li> <li>○筆者の説明の工夫を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「中（前半）」の論の進め方</li> <li>・事例と考えの関係</li> <li>・段落相互の関係</li> <li>・筆者の書き方の工夫</li> </ul>	ア②・エ③・オ② <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の様子や態度の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容の考察</li> </ul>
⑥ 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「中（後半）」の論の進め方を捉える。</li> <li>○「中（後半）」の問いに対する答えを自分の言葉でまとめる。</li> <li>○筆者の説明の工夫を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「中（後半）」の論の進め方</li> <li>・事例と考えの関係</li> <li>・段落相互の関係</li> <li>・答えのまとめ方</li> <li>・筆者の書き方の工夫</li> </ul>	ア②・エ③・オ② <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の様子や態度の観察</li> <li>・ワークシートの記述内容の考察</li> </ul>
7 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者の考えや考えの進め方、それに対する自分の考えをコラムに表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筆者の考えに対する自分の考え</li> <li>○コラムの構成</li> </ul>	ア③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・態度の観察</li> <li>・コラムの記述</li> </ul>
<b>第3次 育みたい力を活用する</b>			
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書いたものを学年・6年生・保護者に発信する。</li> <li>○学習を振り返り、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流の仕方</li> <li>・付箋の書き方</li> <li>○振り返りのまとめ方</li> </ul>	エ④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の様子や態度の観察</li> <li>・振り返りの記述</li> </ul>

7 本時の学習指導 (本時6/9時)

(1) 目標

○筆者の考えや論の進め方について話し合い、説明のしかたの工夫を捉えることができる。

(2) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
・話題と筆者の考えの進め方に対して自分なりの考えをもととしてしている。	・事実と意見との関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。	・語句と語句の関係に気をつけて、考えの進め方を読み取っている。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
◆ ひびきタイム 「平家物語」	○口形 ○発声 ○リズム	・口の形を意識したり、リズムや表現を楽しんだりすることを助言する。	2
1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。  発：今日の学習の進め方を確認しましょう。	○文章の構成「初め・中(前半)・中(後半 終わり)」 ○筆者のおおまかな考え	・前時に行ったことが想起しやすいように、全文揭示と段落構成図を提示する。 ・学習メニューを提示し、見通しをもたせる。	3
円柱形には本当にいいことがあるのだろうか。			
2 問いに対する答えとなりそうな所に、サイドラインを引く。  発：円柱形に理由があるに違いないと言っているけれど、本当かな。そうだと思う部分にサイドラインを引いてみよう。	○サイドラインの引き方 ○問いの答え ○指示語と接続語 ○文末表現 ・～にちがいない。 ・～のである。 ・～でもある。	・初発の感想を基に、「中(後半)」に書かれている内容を考えていく。 ・「見立てる」の学習を想起させ、問いの答えの部分を探す手がかりとなるものを確認する。	5
3 ペアで共有した後、全体で確認する。  発：どこに線を引きましたか。 C：円柱形は強い(速い)形	○ペアの交流のしかた ○友達の考えとの共通点・相違点	・自分の考えをしっかりとみせ、友達の考えとの共通点や相違点について交流させる。	10
4 筆者の事例を検証する。  発：本当に強くて速いのか実験してみましょう。 C：円柱形は強い。 C：円柱形は速い。	○検証実験の方法 ○考察の仕方	・新聞紙を丸めたもの、広げたもの、四角柱にしたもので比べてみる。 ・立方体、平たい形、円柱形の粘土を水に沈めた映像をみて比べてみる。	6
5 検証で分かったことと本文の事実・説明の部分を比べ、確認する。  発：実験でわかったことはどこに書いてありますか。	○事実と説明の部分の捉え方	・実験で分かったことと、筆者が説明している部分を比べさせ、筆者の考えの進め方の工夫に気付かせる。	5

<p>6 問いに対する答えを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>○まとめ方</p>	<p>5</p>
<p>【まとめるための話型】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円柱形には、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">      </span>という、いいことがある。</li> <li>・<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">だからこそ</span>、円柱形は生き物の基本となっている。</li> </ul>		<p>評価場面          &lt;評価規準&gt;ア、エ、オ          ・発表の様子や態度の観察          ・ノートの記述内容          &lt;手立て&gt;          Bなかなか書き始められない児童には、サイドラインを引いた部分を手がかりに書くことを伝える。          A書き終えた児童には、自分の考えも踏まえて答えをまとめるよう助言する。</p>
<p>7 筆者の考えや論の進め方の工夫について考える。</p>	<p>○筆者の考えの進め方          ○論の進め方の工夫</p>	<p>5</p>
<p>発：円柱形のよさを説明するために筆者はどんな工夫をしていたかな。          C：問いを出して実験、説明をした。</p>		<p>5</p>
<p>8 本時の振り返りと次時の学習の確認をする。</p>	<p>○振り返りの観点          ・筆者の考えの進め方で分かったこと          ・できるようになったこと</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で分かったこと、できるようになったことが明確になるような話型を提示する。</li> <li>・次時は筆者の考えやそれに対する自分の考えについてまとめ、コラムに表すことを伝える。</li> </ul>

## 8 板書計画

振り返り

- ・筆者の考えの進め方で分かったこと
- ・できるようになったこと

この位置に、教科書本文とイラストを提示する。

六月二十七日(木)  
 めあて 円柱形には本当にいいことがあるのだろうか。  
 はじめ①筆者の考え  
 中②⑦  
 中⑧⑩(今日はここ!)  
 終わり⑩筆者の考え

```

        graph LR
            A[問い] --> B[実験]
            B --> C[説明①]
            C --> D[説明②]
            D --> E[まとめ]
        
```

【まとめるための話型】

円柱形には、      という、いいことがある。

だからこそ、円柱形は生き物の基本となっている。